

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地					
大原簿記専門学校大阪校		昭和56年3月31日		高芝 徹		〒 532-0011 (住所) 大阪市淀川区西中島3-6-9 (電話) 06-4806-8673					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地					
学校法人大原学園		昭和54年4月1日		中本 每彦		〒 101-0065 (住所) 東京都千代田区西神田1丁目1番3号 (電話) 03-3292-6266					
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度		
商業実務	商業実務専門課程		総合ビジネス学科		平成12(2000)年度		-		平成26(2014)年度		
学科の目的		教育基本法及び学校教育法に基づき、簿記、税務に関する教育を施し、人格の陶冶を行い、もって有為な産業人を育成することを目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		本学科は、ビジネス系関連資格の取得および関連技術の習得を目指す学科である。簿記検定、FP検定、リテールマーケティング検定、MOS、漢字検定などの資格取得が可能である。また、これらの知識や技能を活かし、一般企業の営業職・販売職・経理職・事務職をはじめとした希望職種での内定獲得を目指している。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,700 単位時間	7,970 単位時間	3,410 単位時間	120 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
					ー 単位	ー 単位	ー 単位	ー 単位	ー 単位	ー 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率				
160 人	111 人		34 人		0 %		4 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		21 人								
	■就職希望者数(D)		14 人								
	■就職者数(E)		14 人								
	■地元就職者数(F)		10 人								
	■就職率(E/D)		100 %								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		71 %								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		67 %								
	■進学者数		6 人								
	■その他										
	アルバイト家事手伝い										
(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)											
■主な就職先、業界等											
(令和6年度卒業生)											
山崎製パン(株)、泉州電業(株)、㈱近鉄・都ホテルズ 大阪マリOTT都ホテル、その他各種民間企業											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無						
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/osaka/senmon/school/osaka_boki/										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)										
	総授業時数					1,700 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数					60 単位時間						
うち必修授業時数					0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間						
(B:単位数による算定)											
総単位数					ー 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					ー 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数					ー 単位						
うち必修単位数					ー 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					ー 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					ー 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					ー 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者					(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					12 人
	② 学士の学位を有する者等					(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					4 人
	③ 高等学校教諭等経験者					(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位					(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					0 人
	⑤ その他					(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人
	計										16 人
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数										3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である民間企業・税理士事務所・監査法人と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②企業会計基準、会社法、各税法についての解釈論、改正動向や、企業での取り組みなど教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

意思決定の過程について

- (ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
- (イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
- (ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。
- (エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部、教務部長(課長)が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森松 直樹	大阪商工会議所 人材開発部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
大谷 泰毅	青山商事(株) 洋服の青山 淀川三国店 店長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
高芝 徹	大原学園大阪校 学校長	—	—
松本 直樹	大原学園大阪校 教務部長	—	—
仁木 邦雄	大原学園大阪校 教務部 ビジネス・留学生・救急救命士課 課長	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、11月)

(開催日時(実績))

令和6年度第1回 令和6年8月1日 16:40～17:30
令和6年度第2回 令和6年11月14日 16:40～17:20
令和7年度第1回 令和7年8月7日 16:40～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会でのご意見等

「コミュニケーションが得意な学生に対する指導等」

伝達力、論理的思考力を高めるため、フレームワーク(ロジカルツリー、ピラミッドストラクチャー)を活用したロールプレイングや、毎月の集合会議などではPREP法を用いた発表内容を意識するよう促したりしている。さらにこちら論理的思考力向上を意図しているが、クイズ形式など楽しみながら参加できる研修も行っている。

活用状況

ディスカッション形式で授業を行うなど、学生が発言する機会を作り、教員がアドバイスできる場面を増やすように取り組んでいる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①商業実務分野における実習・演習は、他分野と異なり、企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行なう。
- ②企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

職業実践の趣旨をご説明し、ご理解頂いたうえで協定書を締結し、授業の前に打ち合わせを行い、授業法方法や目標到達点、学生の習熟状況の評価など下記4点について連携を行っている。

- ① 実習授業内容構築へのサポート
- ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③ 授業方法に関する教員への指導
- ④ 学生の学修習熟状況の評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
経理実務	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	実務において、経理職および事務職に求められる、基礎知識および事務手続きを、企業等との連携により、より実践的に習得することを目的として講義・演習を行う。	山口一雄税理士事務所
卒業研究・発表	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	連携企業等の実店舗を題材に、課題に対する改善案をディスカッション・グループワークにより意見をまとめ、連携企業等へプレゼンテーションを行い、評価を受ける。	イオンリテール株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。

「大原学園教職員研修規定」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示又は本人の意思により、下記に示した研修を公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。

①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修

②大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施

③大阪府(関連団体等を含む)主催の実践的な知識・指導スキル向上研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 職業会計人の職業倫理について

連携企業等: 税理士法人エム・アンド・アイ

期間: 令和6年10月19日

対象: 当学科教員

内容 資格取得の先にある職業会計人の倫理観について税理士をモデルとして学び、就職指導を行う際のベースとなる知識を習得する

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 発達障がいといじめ～特性理解の視点から～

連携企業等: 大阪府発達障がい者支援センター

期間: 令和6年8月26日

対象: 当学科教員

内容 発達障がいの特性理解をベースとした介入方法や環境調整とチームアプローチの重要性について理解を深める

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 税務調査におけるAI判定導入について(予定)

連携企業等: 税理士法人エム・アンド・アイ

期間: 令和7年10月予定

対象: 当学科教員

内容 今年度より税務調査に実際取り入られるAI判定の現状と手法について概要を学ぶ(予定)

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 若年層の性暴力被害予防啓発のためのオンライン研修

連携企業等: 文部科学省総合教育政策局

期間: 令和7年8月8日

対象: 当学科教員

内容 若年層の性暴力被害予防啓発のため、学内でできるサポートの具体例や国・民間が行っている取り組みの知識を習得する

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人材像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4) 学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5) 学生支援	①就職に関する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行われているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。

(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

実学教育と人格育成教育を盛り込んだ教育ストーリーのブラッシュアップを図り、早期に卒業後の進路を考える機会を増やし、学生が理想とする就職先から内定を得る結果につながった。また、退学率の低減に対し、相談しやすい関係性の構築のための環境づくりが大切ではないかとの助言をいただく。過去の手法にこだわらず、多様なコミュニケーション手法を検討している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
吉田 知弘	税理士法人エム・アンド・アイ 税理士	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
小野坂 幸一	オリエント監査法人 公認会計士	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
大谷 泰毅	青山商事(株) 洋服の青山 淀川三国店 店長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員
菅原 次郎	社会医療法人 協和会 加納総合病院	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和7年10月6日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①概要 ②教育方針 ③沿革
(2) 各学科等の教育	①入学定員 ②受入方針 ③進級の認定 ④卒業の認定 ⑤称号の授与 ⑥目標とする試験 ⑦主たる試験の合格実績 ⑧卒業生の進路
(3) 教職員	①教職員数 ②教職員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育 ②実習・実技等 ③就職支援等
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②課外活動
(6) 学生の生活支援	①完全担任制 ②就職教育
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、授業減免等
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受入
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和7年10月6日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 総合ビジネス学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1		○		一般教養Ⅰ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ	1通	30	1		○		○		○		
2		○		ビジネス教養Ⅰ	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う	1通	30	1	△	○		○		○		
3		○		キャリアデザインⅠ	面接試験において求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ	1通	30	1	△	○		○		○		
4		○		一般教養Ⅱ	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける	2前	30	1		○		○		○		
5		○		ビジネス教養Ⅱ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	2通	30	1		○		○		○		
6		○		コミュニケーション概論	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ	2前	30	1	△	○		○		○		
7		○		簿記入門Ⅰ	株式会社における複式簿記の基本原則を学ぶ	1前	30	1	○			○		○		
8		○		経営学概論	経営学を学ぶ目的や学問体系を理解すべく、経営学の枠組み、企業形態、経営組織等について概要を理解することにあるそして、戦略論、マーケティング論等の主要テーマについて基本となる知識を得ることで、経営学分野専門科目の学修への橋渡しとすることを目的とする	1通	30	1	○	△		○		○		
9		○		経済原論	ミクロ経済学並びにマクロ経済学の基礎と理論を学び、社会を取り巻く環境や社会現象の中で、経済学がどのように生かされているのかを考えていくことにある また、本科目の内容は、経済学や経営学の応用分野を学ぶ上で、修得しておくことが前提となる	1通	30	1	○	△		○		○		
10		○		国際ビジネス入門	日本企業やグローバル企業における国際ビジネスに関する歴史等を概観した上で、大手企業だけでなく、中小企業間でも国際化が進展している昨今の状況を踏まえ、事業執行にあたっての主な職能、日本企業において重要進出拠点となる国や地域のビジネス環境等を学ぶことにある	1通	30	1	○	△		○		○		

11		○		ファイナンス入門	ファイナンスの対象領域である金融取引や証券市場の仕組み、金融商品の価格、将来価値と現在価値の考え方、さらには債券と株式の基礎的分析手法等を学ぶことにある	1通	30	1	○	△		○		○					
12		○		ミクロ経済学	経済学における基礎科目として、市場を分析し、役割を理解することを目的とする具体的には、消費者行動、生産者行動等のミクロ経済学理論を体系的に学び、現実の経済の問題と関連させながら学ぶことにある	1通	30	1	○	△		○		○					
13		○		マーケティング入門	グローバル化や AI の活用等、市場環境が急速に変化するとともに、消費者のニーズが多様化している昨今の現状にあって、マーケティングの基礎理論と体系を学び、その理論概念を用いて、周囲にある商品やサービスの事例に当てはめていくことにある	1通	30	1	○	△		○		○					
14		○		簿記原理	企業活動を記録するための手法である簿記の基礎を学ぶことにある。そして、簿記を理解することによって、企業で経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読む力や基本的な経営管理のスキル等を修得する	1通	30	1	○	△		○		○					
15			○	簿記初級Ⅰ	簿記の基本原則および企業の日常業務における実践的な簿記の知識を習得する	1前	60	2	○			○		○					
16			○	簿記初級Ⅱ	簿記の基本原則と合わせて企業の日常業務及び月次の集計業務における実践的な簿記の知識を習得する	1前	30	1		○		○		○					
17			○	原価計算初級Ⅰ	簿記の学習の有無を問わず原価計算の基本を学ぶ	1後	60	2	○			○		○					
18			○	原価計算初級Ⅱ	原価計算の基本原則および企業の日常業務における実践的な原価計算の知識を習得する	1後	30	1		○		○		○					
19			○	1級会計学速習基礎	会計基準および適用指針など実務に直結する会計の基礎について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする	1前	90	3	○			○		○					
20			○	1級原価計算速習基礎	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする	1前	60	2	○			○		○					
21			○	1級簿記速習総合	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする	1前	120	4		○		○		○					

22			○	1級簿記速習 演習	大企業を前提とした会計制度を学ぶ	1 前	90	3		○		○		○		
23			○	全経簿記上級 総合 I	大企業を前提とした会計制度、複雑な会計 処理をより詳細に学ぶ	1 前	120	4	○	△		○		○		
24			○	2級商業簿記 基礎 I	基本的な財務報告書類の作成方法・株式会 社会計の基礎を学ぶ	1 前	90	3	○			○		○		
25			○	2級工業簿記 基礎 I	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ	1 前	60	2	○			○		○		
26			○	2級簿記総合 I	テキストによる講義と問題演習により、知 識の定着を図る	1 前	120	4		○		○		○		
27			○	3級商業簿記 基礎	株式会社における複式簿記の基本原則、簿 記の基本原則を学ぶ	1 前	90	3	○			○		○		
28			○	3級簿記総合	基礎レベルではやや難しい会計処理を問題 演習を通じて学ぶ	1 前	120	4		○		○		○		
29			○	1級会计学入 門 I	資産負債中心観を主体とした理論体系を学 び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1 前	90	3	○			○		○		
30			○	1級原価計算 入門 I	伝統的な工業簿記および原価計算の基本的 な内容を学ぶ	1 前	90	3	○			○		○		
31			○	1級会计学基 礎 I	会計基準のみならず適用指針など実務に直 結する会計の基礎について学ぶ	1 前	30	1	○	△		○		○		
32			○	1級原価計算 基礎 I	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎お よび経営戦略の基本的な内容を学ぶ	1 前	30	1	○	△		○		○		
33			○	1級会计学総 合 I	会計基準のみならず適用指針など実務に直 結する会計について、より詳細に学ぶ	1 後	90	3		○		○		○		
34			○	1級原価計算 総合 I	原価計算基準の理論体系、多様化する製造 過程に対する会計処理、経営戦略につい て、より詳細に学ぶ	1 後	90	3		○		○		○		

35			○	2級商業簿記基礎Ⅱ	試算表、精算表、財務報告書など他の会計書類の関連性について体系的に学び、財務報告書類の作成方法・株式会社会計を学ぶ	1前	90	3	○			○		○		
36			○	2級工業簿記基礎Ⅱ	工業簿記および原価計算の関係および会計処理を学ぶ	1前	90	3	○			○		○		
37			○	2級商業簿記応用Ⅰ	商企業の会計処理に関する全体の関連性について体系的に学ぶ	1前	30	1	○			○		○		
38			○	2級工業簿記応用Ⅰ	工業簿記および原価計算の関係および会計処理を学ぶ	1前	30	1	○			○		○		
39			○	2級簿記総合Ⅱ	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学習し、総合問題の基礎も学ぶ	1後	90	3		○		○		○		
40			○	2級簿記総合Ⅲ	株式会社の会計処理を問題演習、総合問題の演習を通じて学ぶ	1後	90	3		○		○		○		
41			○	簿記論入門Ⅰ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1前	30	1	○			○		○		
42			○	簿記論入門Ⅱ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1後	90	3	○			○		○		
43			○	簿記論基礎Ⅰ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1後	120	4	○			○		○		
44			○	簿記論基礎Ⅱ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1後	120	4	○			○		○		
45			○	財務諸表論入門Ⅰ	会計学の概要入門を学ぶ	1前	30	1	○	△		○		○		
46			○	財務諸表論入門Ⅱ	会計基準の入門概要を学ぶ	1後	90	3	○			○		○		
47			○	財務諸表論基礎Ⅰ	金融商品取引法の概要入門を学ぶ	1後	120	4	○			○		○		

48			○	財務諸表論基礎Ⅱ	会計学の入門・基礎を学ぶ	1 後	120	4	○	△		○		○		
49			○	会計士キャリアデザインⅠ	職種や業種について基本的学習を行いつつ、会計士試験の理解を深め試験勉強と実務におけるつながりを理解する	1 通	30	1	○			○		○		
50			○	監査論入門Ⅰ	監査手続きに関して、財務諸表監査に対する基礎的な枠組みを学ぶ	1 前	30	1	○			○		○		
51			○	監査論入門Ⅱ	監査手続きに関して、監査実施論に対する基礎的な枠組みを学ぶ	1 後	30	1	○	△		○		○		
52			○	監査論入門Ⅲ	監査手続きに関して、監査報告論に対する基礎的な枠組みを学ぶ	1 後	30	1	○	△		○		○		
53			○	管理会計論入門Ⅰ	管理会計の概要を知り、基礎を学ぶ	1 前	30	1	○			○		○		
54			○	管理会計論入門Ⅱ	管理会計の概要を知り、原価計算制度の基礎知識を学ぶ	1 前	60	2	○	△		○		○		
55			○	管理会計論入門Ⅲ	択一式の問題演習を通しながら、計算力の向上や原価計算基準を学ぶ	1 後	60	2	○	△		○		○		
56			○	管理会計論入門演習Ⅰ	問題演習を行うことで、原価計算制度の基礎知識を定着させることを図る	1 後	30	1	△	○		○		○		
57			○	企業法入門Ⅰ	会社法の全体像を俯瞰し、会社の設立を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1 前	60	2	○			○		○		
58			○	企業法入門Ⅱ	会社法の全体像を俯瞰し、株式を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1 後	30	1	○	△		○		○		
59			○	企業法入門Ⅲ	会社法の全体像を俯瞰し、株式会社の機関設計や資金調達を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1 後	60	2	○	△		○		○		

60			○	財務会計論財 表入門Ⅰ	財務会計の基礎概念を体系的に学ぶ	1 前	30	1	○				○		○		
61			○	財務会計論財 表入門Ⅱ	概念フレームワーク及び資産評価の基礎概 念を学ぶ	1 後	30	1	○	△			○		○		
62			○	財務会計論簿 記入門Ⅰ	商品売買及び棚卸資産に関する初歩的な会 計処理を学ぶ	1 前	30	1	○				○		○		
63			○	財務会計論簿 記入門Ⅱ	現金預金及び金銭債権に関する初歩的な知 識を学ぶ	1 前	60	2	○	△			○		○		
64			○	財務会計論簿 記入門Ⅲ	基礎知識の定着度確認を目的とする演習	1 後	30	1	△	○			○		○		
65			○	財務会計論簿 記入門Ⅳ	有価証券及び有形固定資産に関する初歩的 な会計処理を学ぶ	1 後	90	3	○	△			○		○		
66			○	財務会計論簿 記入門演習Ⅰ	数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答 を行う	1 後	30	1		○			○		○		
67			○	短答式対策入 門総合Ⅰ	模擬試験形式による効果測定	1 後	30	1	△	○			○		○		
68			○	租税法入門Ⅰ	法人税法の概要を捉え、基本的な計算を学 ぶ	1 後	30	1	○				○		○		
69			○	会計学入門Ⅰ	簿記一巡・商品の流れの初歩的な知識及び 論理的な思考を基に、文章問題を解答する	1 前	60	2	○	△			○		○		
70			○	会計学入門Ⅱ	会計学、会計基準の初歩的な概要を学ぶ	1 前	60	2	○	△			○		○		
71			○	ITリテラシ	ネットワーク、セキュリティの知識とコン ピュータの基本操作を学ぶ	1 後	90	3	△	○			○		○		

72			○	Power Point 基礎	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作 を理解する	1 通	30	1	○	△		○	○						
73			○	キャリアデザ インⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけ なければならないスキルの学習	1 後	30	1	○	△		○	○						
74			○	キャリアデザ インⅢ	グループワークの形式、役割、手法につい て学ぶ	1 後	30	1	○	△		○	○						
75			○	時事	現代社会における主要な時事の基本用語を 理解し、自分の考えや意見を持つための学 習	1 後	30	1	○			○	○						
76			○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用 方法を習得する	1 後	60	2	○	△		○	○						
77			○	言語知識（日 本語）Ⅰ	日本語の言語知識（文字、語彙、文法）を学 び、コミュニケーション能力（読解、聴解） を養います	1 前	180	6	△	○		○	○						
78			○	言語知識（日 本語）Ⅱ	日本語の言語知識（文字、語彙、文法）を学 び、コミュニケーション能力（読解、聴解） を養います	1 後	180	6	△	○		○	○						
79			○	F P 基礎	日常生活に関わる様々なお金の知識を身に つける	2 前	120	4	○	△		○	○						
80			○	F P 応用	日常生活に関わる様々なお金の知識を身に つける	2 前	60	2		○		○	○						
81			○	F P 総合	「お金」に関する総合的な知識を深め、経 済社会との関係性を理解する	2 前	90	3		○		○	○						
82			○	経理実務	経理実務で必要となる業務内容を体系的に 学び、知識を習得するための講義	2 通	60	2	○	△		○	○					○	

83			○	給与計算実務	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務に必要な知識を習得する講義	2後	30	1	○	△		○	○		
84			○	財務会計	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度を理解するための講義	2後	90	3	○	△		○	○		
85			○	I T パスポート基礎	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を理解する	2通	90	3	○			○	○		
86			○	I T パスポート・リテラシ演習	情報技術の考え方・仕組み・専門用語を問題演習を通じて学ぶ	2後	30	1		○		○	○		
87			○	I T パスポート応用	基礎レベルではやや難しい情報技術の考え方を問題演習を通じて学ぶ	2後	60	2	△	○		○	○		
88			○	パソコン実習Ⅰ	Excelの資料作成、作業スピードを向上するテクニックを習得する	2通	30	1	○	△		○	○		
89			○	パソコン実習Ⅱ	Excelの資料作成、作業スピードを向上するテクニックを習得する	2通	30	1	○	△		○	○		
90			○	パソコン実習Ⅲ	応用的な機能を活用した文書作成や複雑なデータ集計を行うスキル習得のための実習	2通	30	1		○		○	○		
91			○	販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する	2通	90	3	○			○	○		
92			○	販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	2後	90	3	○	△		○	○		
93			○	経営常識	日常生活や仕事に役立つ用語、事例学習	2後	30	1	○	△		○	○		
94			○	言語知識（日本語）Ⅲ	日本語の言語知識（文字、語彙、文法）を学び、コミュニケーション能力（読解、聴解）を養います	2前	180	6	○	△		○	○		

95			○	言語知識（日本語）Ⅳ	日本語の言語知識（文字、語彙、文法）を学び、コミュニケーション能力（読解、聴解）を養います	2後	180	6	△	○		○		○				
96			○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	2通	30	1	○	△		○		○				
97			○	ビジネスマナー	ビジネス電話対応や接客、接遇に関するルールを学習する	2通	60	2	○	△		○		○				
98			○	販売仕入管理	販売、仕入に関する店舗運営上の管理業務に関する知識を習得する講義	2通	30	1	○			○		○				
99			○	英会話入門	日常生活での簡単な英会話を事例をもとに学習する	2通	30	1	○	△		○				○		
100			○	言語知識（中国語）Ⅰ	中国人ネイティブ講師による講義	2後	30	1	○			○				○		
101			○	言語知識（韓国語）Ⅰ	韓国人ネイティブ講師による講義	2後	30	1	○			○				○		
102			○	マーケティング概論	マーケティングの必要性と目的を学習する	2後	60	2	○	△		○		○				
103			○	卒業前特別講座	社会人として必要な考え方やスキルを学ぶ	2後	30	1	○			○		○				
104			○	卒業研究・発表	実店舗を題材にして、課題に対する改善案を提案し発表する	2後	60	2		○		○		○				○
105			○	基礎数的Ⅰ 数的推理	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	2前	50	2	○			○		○				
106			○	基礎数的Ⅱ 判断推理	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2前	40	2	○			○		○				

107			○	実践数的空間把握	数学的な基礎知識や空間把握能力を基に、問題を解答する	2前	20	1	○				○		○		
108			○	実践数的総合	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	2前	40	2		○			○		○		
109			○	基礎社会科学Ⅰ 政治	基本的人権や統治機構など憲法の基礎知識を学ぶ	2前	30	1	○				○		○		
110			○	基礎社会科学Ⅱ 経済・社会	金融政策・財政政策・外国為替など、経済の基礎知識、労働問題・環境問題など、社会の基礎知識を学ぶ	2前	40	2	○				○		○		
111			○	実践人文科学Ⅰ 地理	気候や各国の産業などの基礎知識と本試験レベルの実践的知識を学ぶ	2前	20	1	○				○		○		
112			○	実践人文科学Ⅱ 日本史	大和政権から昭和までの日本史を学ぶ	2前	20	1	○				○		○		
113			○	実践人文科学Ⅲ 世界史	中国の歴代王朝と、ヨーロッパ世界を中心とした世界の歴史を学ぶ	2前	20	1	○				○		○		
114			○	基礎自然科学総合	理数系科目の基礎を幅広く総合的に学ぶ	2前	20	1	○				○		○		
115			○	基礎人文科学総合	西洋および東洋の倫理や芸術、文学を学ぶ	2前	20	1	○				○		○		
116			○	基礎数学Ⅰ	基本的な数学計算の能力を身に着け、文章問題を解答する	2前	20	1	○				○		○		
117			○	基礎言語Ⅱ 英語	文法や熟語など英語分野の基礎的な知識の習得	2前	30	1	○				○		○		
118			○	実践自然科学Ⅰ 生物・地学	生体から自然環境までの生物分野、地球の内部構造から宇宙までの地学分野を学ぶ	2前	20	1	○				○		○		

119			○	実践自然科学Ⅱ 物理・化学	物理分野は基本的な公式を覚え、運動・熱・電気などの仕組みを学び、化学分野は物質の仕組みや物質の変化を学ぶ	2 前	20	1	○				○		○		
120			○	基礎言語Ⅰ 文理・国語	文法などの国語分野の基礎的な知識と文章読解力の習得	2 前	20	1	○				○		○		
121			○	応用演習 数的処理本試験対策	数的分野全般について、更なる問題演習による試験直前の応用力強化	2 前	20	1		○			○		○		
122			○	応用演習 知識系科目本試験対策	知識系科目全般について、更なる問題演習による試験直前の応用力強化	2 前	20	1		○			○		○		
123			○	総合答案練習Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 前	150	5		○			○		○		
124			○	実践答案練習Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 前	60	2		○			○		○		
125			○	直前答案練習Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 前	180	6		○			○		○		
126			○	直前答案練習Ⅱ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 前	120	4		○			○		○		
127			○	直前答案練習Ⅲ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2 通	30	1		○			○		○		
128			○	公務員就職試験対策演習	多様化する公務員試験に対応するための一般教養力の習得	2 前	30	1		○			○		○		
129			○	憲法	基本的人権や統治機構など憲法の基礎知識を学ぶ	2 通	40	2	○				○		○		
130			○	民法	総則や物権、債権など民法の基礎知識を学ぶ	2 通	70	3	○				○		○		

131			○	行政法	行政法の基礎知識を学ぶ	2 通	40	2	○				○		○		
132			○	公務員時事対策	自然科学から国際問題まで幅広いジャンルの社会時事を学ぶ	2 前	30	1	○				○		○		
133			○	公務員時事研究	就職先に関連する社会的ニュースを考察する	2 前	60	2		○			○		○		
134			○	公務員キャリアデザイン基礎	効果測定を通して面接の基礎を修得し、4試験種に向けた面接指導を行う	2 通	90	3		○			○		○		
135			○	公務員キャリアデザイン 公務員春試験	公務員春試験の二次試験を踏まえた基礎的な面接の練習	2 前	30	1		○			○		○		
136			○	公務員キャリアデザイン 公務員秋試験	公務員春試験の二次試験を踏まえた実践的な面接の練習	2 通	120	4		○			○		○		
137			○	就職活動準備	公務員及び民間就職の活動前に基礎的なビジネスマナーや所作を学ぶ	2 通	90	3		○			○		○		
138			○	公務員適性検査演習Ⅰ	公務員試験で重視される事務適性試験の得点力を強化する	2 前	60	2		○			○		○		
139			○	公務員適性検査演習Ⅱ	公務員試験で重視される事務適性試験の得点力を強化する	2 前	30	1		○			○		○		
140			○	公務員教養論文対策	公務員初級試験を見据えての文章作成スキルの習得	2 前	30	1		○			○		○		
141			○	トレーニング実習	実務経験者の講師をお招きし、その講義から得た知識・技能で実習を行う	2 通	30	1				○	○		○		
142			○	職業実務Ⅰ	官公庁等から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官公庁研究を行う	2 通	15	1		○			○		○		

143			○	職業実務Ⅱ	警察または消防に関する講義（または演習・実習）を行い、その講義（演習・実習）から得た知識を基に官庁企業研究を行う	2通	15	1		○		○		○					
144			○	職業実務Ⅲ	大阪国税局から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う	2通	15	1		○		○		○					
145			○	職業実務Ⅳ	実務経験の豊富な講師をお招きし、その講義から得た知識を基に消防官職種研究を行う	2後	15	1		○		○		○					
146			○	職業実務Ⅴ	実務経験のある講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官公庁・法律研究を行う	2通	15	1		○		○		○					
147			○	公官庁講話	現役公務員の様々な職種の方の講話を聴き職種への理解を深める	2通	20	1	○			○		○					
148			○	公務員倫理	公務人材開発協会より講師をお招きし、公務員に関する法令や服務規程を学ぶ	2後	15	1		○		○		○					
149			○	公共ボランティア実習Ⅰ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	2通	30	1				○		○		○			
150			○	公共ボランティア実習Ⅱ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	2通	30	1				○		○		○			
151			○	法律研究	法律に関する講義を受け、研究および発表を通じて法律の考え方を学ぶ	2後	30	1		○		○		○					
152			○	行政研究	災害対策に関する講義を受け、研究・発表を通じて防災への理解を深める	2後	30	1				○		○		○			

153			○	ミクロ経済学	経済学における基礎科目として、市場を分析し、役割を理解することを目的とする具体的には、消費者行動、生産者行動等のミクロ経済学理論を体系的に学び、現実の経済の問題と関連させながら学ぶことにある	1 通	30	1	○	△		○		○				
154			○	マクロ経済学	経済学における基礎科目として、国全体の経済を分析するマクロ経済学の基礎理論を学習することにある 具体的には、各種指標、とりわけ GDPの決定メカニズム、経済成長、景気変動等の基礎的内容からマクロ経済学派の思考を学修する	1 通	30	1	○	△		○		○				
155			○	財務会計基礎	主に企業会計で使われるもので、企業における事業活動の結果を反映する会計情報を外部の利害関係者に報告するための会計として、まずは、会計原則並びに理論を学び、それらの役割を理解するとともに、貸借対照表に関する内容を学修することにある	1 通	35	2	○	△		○		○				
156			○	競争戦略論	競争戦略に知識や理論、体系、フレームワークを理解し、実際の企業行動に当てはめて説明できるようになることにある 具体的には、以下の点を挙げる ① 業界における競争構造分析の目的と必要性が説明できること ② ファイブフォース分析に係る説明ができること ③ 競争戦略論の思考方法を通じて経営現象を捉えることができること	1 通	45	2	○	△		○		○				
157			○	国際経営論	まずは国際経営の歴史的展開を学び、多国籍企業における組織と戦略並びに実態を理解することにあるそして、国際的に広がった企業の活動は、いかに組織・運営され、いかに文化や歴史的背景を異にする国と地域に販売・生産・研究開発拠点を配置するのか等の固有の問題についても学修していく	1 通	45	2	○	△		○		○				
158			○	ブランドマネジメント論	ブランド戦略を立案・構築するために必要となる理論的観点からの枠組みを理解することにある具体的には、ブランド戦略と価値創造、ブランド要素戦略、ブランドと経験価値等を体系的に理解していくことで、ブランド構築が競争優位持続化の手段としていかに重要であるかを学修していく	1 通	40	2	○	△		○		○				
159			○	マーケティング論	マーケティングの基礎を体系的に学修するとともに、具体的な企業のマーケティング戦略事例に触れながら、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、外部環境分析・内部環境分析、マーケティング・ミックス等に関する理解を深めていき、実務で利活用できることにある	1 通	45	2	○	△		○		○				

160			○	経営管理論	経営管理に必要なとなる知識や理論等を体系的に理解することにある具体的には、生産性と創造性の探求理論としての経営管理論という観点を前提に、組織デザインや経営戦略、資源の管理等の環境適応に関する管理、さらには、経営のリーダーシップや組織の活性化、企業文化の創造と変革等の変革の管理について体系的に理解した上で、現代の日本における経営管理のあり方等を学修する	1 通	45	2	○	△		○		○				
161			○	経営組織論	経営組織論の概念のもと、組織とは何かという視点に始まり、基礎理論、組織構造とデザイン、内部組織のマネジメント、外部環境との関係性から組織の戦略を考えていく等の考え方を体系的に理解するとともに、組織の変革の捉え方や進め方等も学修していくことにある	1 通	45	2	○	△		○		○				
162			○	財務諸表論	企業外部の利害関係者に対して、企業の財務状況や経営状況を報告するために行われるという観点から、経済社会において重要な情報源であるという財務会計について、財務諸表（貸借対照表、損益及び包括利益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書）を通して、企業の経営状況や会計の枠組み等を理解することにある	1 通	60	2	○	△		○		○				
163			○	統計分析入門	企業価値向上に繋げるべく、リスク管理としてのリスクの計量化を図ったり、各種戦略の策定を適切に行うにあたっては、データに基づいた客観的な意思決定をする必要がある等の状況を踏まえ、統計学の基本的理論を用いてデータ整理から要約、さらにはデータ傾向の抽出を行うといった一連の統計分析手法を学修することにある	1 通	60	2	○	△		○		○				
164			○	AI・データサイエンス基礎概論	大量のデータから有益な情報、法則、知見等を導き出すための手法であるデータサイエンスの基礎知識や理論、技能の修得をすることにある具体的には、データ取得と管理、散布図や相関係数等のデータ分析の基礎、クロス集計や回帰分析等のデータサイエンス手法、さらには、機械学習とAI(人工知能)等を学修する	1 通	60	2	○	△		○		○				
165			○	ビジネスデータ分析	統計学の理論と統計手法の基礎を修得し、マーケティングの分野で統計学をどのように活用できるかを理解することにある実際に、統計ソフトRを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身に付けることにある	1 通	60	2	○	△		○		○				

166			○	経営情報論	経営学の視点からDX、ICT、ビッグデータ等の技術革新が企業経営にどのような影響を及ぼしているのか、そして、どのように活用されているのかという点を理論と実際の双方から学修することにある	1 通	60	2	○	△		○		○				
167			○	リーダーシップ論	既存のリーダーシップ研究に基づいた様々なアプローチ手法を理解し、リーダーシップの基本的な知識を修得することにある 複雑かつ多様性が重視される環境下において、リーダーシップの重要性はさらに高まってきており、取るべきリーダーシップの手法も変化してきていることから、根本の部分にある「リーダーシップとは何か」ということについて、成長発達理論等を根拠に理解していく	2 通	60	2	○	△		○		○				
168			○	企業倫理と社会的責任	企業経営における規律性と適正性を確保するための仕組みであるコーポレートガバナンスを学修する具体的には、いかに企業不祥事を防止し、企業価値を高め、内部・外部における多数のステークホルダーとの関係を保持し、経営の発展を実現させ、管理していくか等をグローバルな視点や実務の観点を取り入れながら、体系的な理論と知識を修得することにある	2 通	60	2	○	△		○		○				
169			○	マーケティング調査	市場分析やセグメンテーション等のマーケティング戦略を策定することができるようになるために、マーケティング調査の基本的意義から、調査課題の設定、質問紙の作成、データ収集、データ分析、報告書の作成の一連の調査過程を体系的かつ実践的に学修をすることによって、マーケティング調査に関する深い理解を得ることにある	2 通	60	2	○	△		○		○				
170			○	デジタルマーケティング	SNS やインターネット広告等のデジタル技術を活用したデジタルマーケティングの基礎となる理論や概念、戦略、マネジメントを体系的に学修し、特に、企業がインターネット上で実施するマーケティングについて、消費者行動の視点から分析・検討を進めることで、デジタルマーケティングの理解を深めていくことにある	2 通	60	2	○	△		○		○				
171			○	卒業論文Ⅰ	卒業論文の制作のための研究テーマの設定方法、実行可能な研究計画の立て方、適切な調査・研究方法を順次確認しながら作業と考察を進め、構想・準備を行い、論文の執筆、完成に至るまでのスキルを修得することにある本授業(卒業論文Ⅰ)では、論題設定の動機・内容・構成・参考文献などを具体的に提示し、それに対して、担当教員が助言等を行う	2 通	60	2	○	△		○		○				

172			○	卒業論文Ⅱ	卒業論文の制作のための研究テーマの設定方法、実行可能な研究計画の立て方、適切な調査・研究方法を順次確認しながら作業と考察を進め、構想・準備を行い、論文の執筆、完成に至るまでのスキルを修得することにある本授業(卒業論文Ⅱ)では、自身が設定したテーマの下、研究計画書及び論文要旨を参考にしながら、実際の論文執筆から、完成・提出・評価までの内容となる	2 通	60	2	○	△		○		○				
173			○	金融論	証券化や投資信託、直接型・間接型の金融商品等の難解な現代における金融の仕組みを理解した上で、金融機関の意義、金融政策、金融規制等の政策のあり方を学修することにある	1・2 通	45	2	○	△		○		○				
174			○	流通システム論	小売業、卸売業等の流通システムを構成する各種企業の活動について、具体的事例を踏まえながら、その流通システムの構造と発展に係る理論的体系を学修することにある	1・2 通	45	2	○	△		○		○				
175			○	イノベーション論	イノベーションとはどのようなもので、企業経営においてどのような役割を果たすのかということを、新製品開発や組織、経営戦略、製品アーキテクチャ、価値創造等の多角的視点から理解し、理論的に思考することにある	1・2 通	45	2	○	△		○		○				
176			○	消費者行動論	消費者の多様性を理解した上で、消費者心理と行動における基本的な理論や枠組みについて、体系的な知識を修得することにある具体的には、購買動機、ブランド選択等のマーケティングを行うにあたって不可欠となる消費者の行動分析について、戦略的アプローチのみならず、心理学的アプローチを含めて学修をしていく	1・2 通	45	2	○	△		○		○				
177			○	現代商品論	商品論(商品学)とは何かを考察した上で、現代における商品の意義や特徴について学修することにある具体的には、モノ型商品とサービス型商品という商品の概念を明らかにし、現代商品における特性、品質構造、価格、標準化競争、商品のコモディティ化等を体系的に理解することを目的とする	1・2 通	45	2	○	△		○		○				
178			○	経営学史	経営学の系譜を考える上で、歴史的に重要性が高いものと位置付けられる主要な経営学説について、その時代背景とともに生み出された問題意識に着眼点を置きながら理解をしていくことで、現代の企業経営における課題を解決するための技法を得ることにある	1・2 通	45	2	○	△		○		○				

179			○	産業システム論	経済学理論を応用して、企業における意思決定や産業構造に関する考察方法を理解することにある具体的には、ミクロ経済学を個別市場や産業に応用して、消費者並びに生産者の行動を分析する学問分野であり、社会全体で考えた場合に、製品開発、生産、販売等が望ましい状況下にあるのかを評価するための基礎理論を学修する	1・2通	45	2	○	△		○		○				
180			○	中小企業論	第一次産業を除く日本企業の99%超を占める中小企業の日本経済社会における重要基盤としての役割や雇用の創出、資金的・物的・人的支援を通じた地域社会への貢献等を踏まえるとともに、企業存立や中小企業政策、現代の中小企業の課題等を考察しながら学習をしていくことにある	2通	120	4	○	△		○		○				
181			○	経営分析論	財務諸表・各種数量等の定量的情報や業界での地位・業種の状況等の定量的情報を基に、算定された経営指標等によって、企業の経営状態や課題を抽出し、経済的意思決定を行うことができるようになることにある具体的には、財務諸表分析の手法である安定性分析、収益性分析、生産性分析、成長性分析等が挙げられる	2通	120	4	○	△		○		○				
182			○	組織行動論	組織行動における基礎概念を確認した上で、組織を一定の共通目的を持った複数の個人から構成される集団と捉えて理解を深めていくことで、組織や人材マネジメントにおいて必要となる判断力等を身に付けることにある具体的には、個人と組織の両視点から、組織内の人間の心理や行動について考察し、モチベーション論やリーダーシップ論等を根拠にしながら、組織の中の人間をどのようにマネジメントしていくかを理解していく	2通	60	2	○	△		○		○				
183			○	生産管理論	現代の生産管理において重要な要素であるQuality(品質)、Cost(コスト)、Delivery(納期)について、バランスを考えながら利益や顧客満足度、企業価値の向上を図るべく、競争力の視点から生産管理における基本的知識と理論体系を学修することにある	2通	60	2	○	△		○		○				
184			○	戦略的行動論	ゲーム理論における数多くのケースに触れ、さらには、その応用モデルについて、分析し、解釈できるようになることで、企業間のライバル競争等で見られる戦略的行動を理論的に理解できるようになることにある	2通	60	2	○	△		○		○				

185			○	リスクマネジメント論	リスクマネジメントの基本理論として、基本的なスキームやリスクの特定、リスク分析評価、リスクコントロールとリスクファイナンスを理解するとともに、企業が有するリスク評価と決定に関する重要な要素について理解をすることで、経営戦略リスクマネジメントの実践的な展開方法を修得することにある	2通	60	2	○	△		○		○				
186			○	経済学応用	経営者への適切なインセンティブづけ、従業員のインセンティブを考慮した組織のデザイン等の情報とインセンティブにまつわる諸問題を経済学の視点で考察し理解することにある具体的には、インセンティブの経済学や契約理論が扱うモラルハザード、アドバース・セレクション、コミットメントの問題等を中心に学修する	2通	60	2	○	△		○		○				
187			○	現代会計基準論	世界における会計基準の急速な統一化への動きは、近年の会計をめぐる制度的環境の大きな変化の一因となっていることを踏まえ、国際財務報告基準(IFRS)を巡っての日本国内外の動向を概観していくとともに、日本会計基準の各基準の背景と内容を確認しつつ、その理解を深めることにある	2通	120	4	○	△		○		○				
188			○	コストマネジメント論	会計情報を用いた組織マネジメントの1つであるコストマネジメント手法について学修するものであるコストマネジメントは、企業のサステナビリティ(持続可能性)に貢献し、また、理論と実例が結び付いたものであることから、経営管理活動において、全てにコスト管理の手法が実行され、さらには原価情報がどのように役立っているのか検証する	2通	120	4	○	△		○		○				
189			○	原価計算論	財務諸表作成目的並びに経営管理目的として実施される原価計算において、原価情報等の有用性、それを活用するための知識と知見の修得を目指し、原価計算の一連の計算手続きを理解するとともに、手続きの根拠になる理論を学修することにある	2通	60	2	○	△		○		○				
190			○	管理会計論	管理会計システムは、組織管理に不可欠な経済的な情報を提供する理論・技術であるところ、戦略や利益計画の作成と実行に管理会計システムを役立てることが可能である旨を理解・学修することにあるそして、管理会計を学修するにあたっては、単なる計算のための手法と捉えるのではなく、実践的に経営管理との関連性を思案しながら学修を進めていくこととする	2通	60	2	○	△		○		○				

191			○	意思決定会計論	企業の将来の経営方針や財務状況に大きく影響する、非常に重要性の高い意思決定であり、研究開発や設備投資、M&A等の多額の資金を必要とした長期的・戦略的視点が必要となる戦略的意思決定について、意思決定目的に役立つ会計情報の作り方や使い方について学修することにある	2通	60	2	○	△		○		○		
192			○	財務会計応用Ⅰ	財務会計における制度や理論、その活用方法を修得することにある具体的には、基礎概念から個別財務諸表の基本項目について、会計基準等の知識・理解を得るだけでなく、その基盤にある考え方を学修する	2通	60	2	○	△		○		○		
193			○	財務会計応用Ⅱ	財務会計における制度や理論、その活用方法を修得することにある具体的には、金融商品、デリバティブ、リース、固定資産の減損、研究開発費・ソフトウェア、退職給付、新株予約権、組織再編、税効果、連結財務諸表等の会計基準等を学修する	2通	60	2	○	△		○		○		
194			○	コーディング基礎	最も広く使用されているプログラム言語であるC言語を通して、プログラミングの基礎を理解した上で、プログラミングの概念や技法の基本を修得することにあるまた、重要なアルゴリズムを題材に、その構造と実現化の方法も学修する	2通	120	4	○	△		○		○		
195			○	機械学習プログラミング	人工知能(AI)の開発等のプログラミング言語として広く活用され、機械学習・深層学習アルゴリズムの実装に不可欠となるPythonを用いた基本的なプログラミング技術を修得することにある	2通	120	4	○	△		○		○		
196			○	データベース	データベースの仕組みを学修する上で必要となる関係データベースに関する基礎理論、SQL、設計理論等について理解をすることで、データベースの理論と実装を学び、基本的なデータベースの操作方法並びに活用方法について学修することにある	2通	60	2	○	△		○		○		
197			○	プログラミング A 基礎	基本設計、外部設計、内部設計、プログラム設計、テスト、運用保守等の情報システムの構築に必要な知識と技術を修得することにある具体的には、プログラム言語として、Microsoft Excelの機能の1つであるVBA(Visual Basic for Application)を学修する	2通	60	2	○	△		○		○		

198				○	プログラミング A 応用	Microsoft Excelでデータベースを構築するとともに、データ分析を目的とした基本的な技法を実践的かつ具体的に例題を用いて学修することにある具体的にはMicrosoft ExcelのデータベースファイルにVBAマクロを組み込んだ、高度なデータ分析手法を修得する	2 通	60	2	○	△		○		○			
199				○	システム開発	経営情報システムの特性を理解した上で、現状を分析し、システムを再構築することでICTを利活用すべく、そのために必要となる基礎理論から、情報システムの設計や管理、インターネット・ビジネス等を学修することにある	2 通	60	2	○	△		○		○			
200				○	プログラミング B	プログラム言語の中でも、とりわけ広く用いられているJAVA言語における変数・配列・条件分岐・繰り返し等の文法や役割、動作を理解し、実際に使用することで、プログラミング技術の修得をすることにある	2 通	60	2	○	△		○		○			
201				○	民法Ⅰ（総則・物権）	民法総則・物権における条文やその制度趣旨、概念、用語の意味、要件・効果等の基本的事項を確認・理解した上で、判例の見解や学説の動向等も必要に応じて検討することで、市民社会における市民相互間を規律する私法の基礎としての民法について学修することにある	2 通	120	4	○	△		○		○			
202				○	民法Ⅱ（債権・親族相続）	民法債権・親族相続における条文やその制度趣旨、概念、用語の意味、要件・効果等の基本的事項を確認・理解した上で、判例の見解や学説の動向等も必要に応じて検討することで、市民社会における市民相互間を規律する私法の基礎としての民法について学修することにある	2 通	60	2	○	△		○		○			
203				○	商法総則・商行為法	商法総則・商行為法の学修を通して、企業と企業取引に関する特別規定等の理解を深めるとともに、私法における一般法としての民法Ⅰ（総則・物権）、民法Ⅱ（債権・親族相続）の学修も併せて行うことで、企業や商取引を取り巻く法制度に係る知識を修得することにある さらに、商法総則は、企業が市場で公正かつ透明性を持って行動するための指針を提供し、消費者や他の事業者との信頼関係を構築する上で重要な意義をもつことから、企業は商法総則に規定する内容を正確に把握し、適切なコンプライアンスプログラムを策定並びに実施することで、リスク管理を強化し、持続可能な経営を目指すことができるという視点を理解することは重要である	2 通	60	2	○	△		○		○			

[illegible]

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	修業年限以上在学し、学科の定める授業時間以上履修、かつその該当する所定の授業科目及び単位数を修得し、最終学年の終わりに行われる卒業審査に合格した者。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	必修科目は必ず履修し、選択必修科目は別に定める別表に従い系統別に履修する。	1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)